

第4回新しい美浜の学校教育検討委員会 議事録

日 時： 令和8年6月29日（月） 19時00分～21時00分

場 所： 美浜町役場 2階会議室

【出席委員】 26名

名古屋市立大学 特任教授	鈴木 賢一
兵庫教育大学 准教授	安藤 福光
ひまわりこども園 PTA ひまわり会 会長	松永 健哉
こじか保育園 PTA さくら会 代表	津村 陽介
松原小学校 PTA 共啓会 会長	平井 絢弥
和田小学校 PTA 育友会 会長	西 貴生
松洋中学校 PTA 松洋会 副会長	松下 哲也
松洋中学校 PTA 松洋会 副会長	永井 洋二
松原小学校 校長	福田 円
松原小学校 教頭	楠見 智弘
和田小学校 校長	立花 寿雅子
和田小学校 教頭	坂田 香織
松洋中学校 校長	吉村 元
松洋中学校 教頭	越本 明伸
松原小学校 学校運営協議会 会長	田端 正幸
松洋中学校 学校運営協議会 会長	塩崎 清則
和田小学校 学校運営協議会 会長	片山 隆
区長会 会長	田中 一民
区長会 副会長	久保 博巳
区長会 代表	井本 善也
区長会 代表	村岡 茂
美浜町教育委員会 教育長職務代理	出口 和幸
美浜町教育委員会 委員	津村 仁志
美浜町役場 副町長	石塚 和夫
保護者代表	和田 亜貴

【欠席委員】 4名

田口 誠（こじか保育園 PTA さくら会 代表）
 田端 克好（ひまわりこども園 PTA ひまわり会 副会長）
 西野 豪倫（和田小学校 PTA 育友会 副会長）
 龍神 早奈恵（松原小学校 PTA 共啓会 副会長）

【事務局】

美浜町教育委員会 塩崎教育長
 美浜町教育委員会教育課 北村課長、伊藤指導主事（主幹）、徳田係長、
 井本事務長、戸田係長、中川主事、小川主事
 (株)地域計画建築研究所（アルパック） 間瀬、清水、増見、城本

【配布資料】

- ・ 資料（事前配布） 第3回新しい美浜の学校教育検討委員会議事録
- ・ 資料2 事例視察のスライド資料
- ・ 資料3 アンケート結果概要のスライド資料
- ・ 資料4 新しい美浜の学校づくり通信 Vol.1～Vol.3
- ・ 資料5-1 教職員アンケート報告書（※速報値）
- ・ 資料5-2 保護者アンケート報告書（※速報値）

発言者	内 容 (口 述)
1. 開会	
事務局	・ それでは、第 4 回新しい美浜の学校教育検討委員会を開会いたします。 ・ 本日はお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。 ・ はじめに、美浜町教育委員会 教育長 塩崎より、ご挨拶申し上げます。
事務局（教育長）	・ 本日は、第 4 回新しい美浜の学校教育検討委員会を開催いたしましたところ、何かとご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。 ・ さて、3 月 18 日に開催しました第 2 回検討委員会以来、委員の皆さま全員にお集まりいただいていた会議は、約 2 か月半ぶりの開催となります。 ・ この間、4 月 4 日・5 日には住民・保護者の皆さまへの説明会を開催し、また、5 月 12 日には第 3 回検討委員会として、加東市立東条学園への視察を行いました。 ・ さらに、5 月下旬から 6 月上旬にかけて、小中学校の教職員および小学校就学前から中学校までの保護者の皆さまを対象に、アンケートを実施させていただいております。こちらにつきましては、後ほど報告させていただきます。 ・ 本日の会議では、各委員の皆さまから活発なご意見をお伺いできるよう、グループに分かれて協議いただくグループワーク形式で進行させていただきます。 ・ 簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。
事務局	・ 資料の確認
出席委員	(過不足等の申告なし)
事務局	・ 本日の検討委員会は、令和 8 年度に入ってから、皆さまに会議室へお集まりいただく初めての会議となります。 ・ そのため、年度の変更に伴い、委員の交代についてご報告いたします。 ・ 小中学校の PTA 役員の皆さまや、区長会の役員の皆さまに交代がございましたので、本検討委員会の委員につきましても変更が生じております。 ・ まず、和田小学校 PTA 副会長につきましては、これまで濱田様をお願いしておりましたが、今回から西野様に変更となります。なお、西野様は本日、まだお見えになっていないようです。 ・ 続きまして、松洋中学校 PTA につきましては、これまで PTA 会長の金川様、副会長の和田様をお願いしておりましたが、今回から副会長の松下様、同じく副会長の長井様をお願いすることとなっております。 ・ 松洋中学校 PTA につきましては、本来であれば、現在 PTA 会長である北村様をお願いするところですが、ご本人が議員の職に就かれていることとの兼ね合いもあり、辞退されることとなりました。そのため、副会長のお二人をお願いさせていただいております。 ・ 続きまして、区長会副会長につきましては、浦辺様から久保様に変

	更となっております。 ・なお、第3条第8号の規定に基づき、教育委員会が必要と認める者として、保護者代表という形で、和田様には引き続き検討委員をお願いしております。 ・そのため、検討委員につきましては1名追加となり、全体で29名となりますことをご報告いたします。
事務局	・それでは、配布させていただいております次第に沿って進めてまいりたいと思います。 ・議事に入る前の確認事項として、本日、田端克好委員より欠席のご連絡をいただいております。 ・現在、本日の出席者は26名です。設置要綱第6条第2項に基づき、本委員会が成立していることをご報告いたします。 ・ここからの進行につきましては、設置要綱第6条に基づき、委員長であります安藤先生にお願いしたいと思います。 ・安藤先生、よろしくお願いいたします。
委員長	・それでは皆さま、今年度初めての会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。 ・本日は内容が多くございますので、円滑な議事進行にご協力いただければと考えております。 ・それでは、議事に入りたいと思います。
2. 案件	
2-1 事例視察（加東市立東条学園）のふりかえり	
委員長	・まず、次第の「2-1 事例視察（加東市立東条学園）のふりかえり」について、事務局からご説明をお願いいたします。
事務局	・本日配布しております、資料2「事例視察」のスライド資料をご覧ください。 ・令和8年5月12日に、兵庫県加東市にあります東条学園小中学校へ視察に行きました。 ・当日の参加者は、検討委員会委員の皆さまが12名、事務局が4名、アルパックが4名の、合計20名でした。 ・東条学園小中学校は、令和3年に開校した義務教育学校で、児童生徒数はおよそ550名程度となっています。美浜町では、現在、小中学校を合わせておよそ380名ですので、本町よりも若干規模の大きい学校となっています。 ・また、加東市では、東条学園小中学校のほか、昨年度、令和7年度に社学園小中学校を開校しており、さらに令和10年度には滝野学園小中学校を開校予定とされています。 ・このように、加東市では、市町村合併前の3地域に分ける形で、市内全域において小中一貫教育を進められています。概要についてはスライドにまとめておりますので、そちらもご覧いただければと思います。 ・なお、視察の内容につきましては、事前に配布させていただいております報告書にまとめております。本日は時間の都合もありますので、詳細については、また改めてご確認いただければと思います。 ・それでは、視察に参加いただきました委員の皆さまの中から、数名の方に、実際に行って感じられたことを少しお話しいただきたいと思います。

	思います。 ・田端委員、和田委員より、一言ずつお願いしたいと思います。
委員 A	・加東市の東条学園を視察し、大変驚きました。到着してまず、建物が大きく広がっている様子や、駐車場の広さに驚きました。また、上の通路を通過して反対側へ行った際にも、非常に立派な施設であると感じました。 ・私のこれまでの感覚では、「これが学校なのか」と思うほど、ハード面が非常に充実した施設でした。まさにその一言に尽きます。 ・特に小学校というものは、地域の中心にあり、見ればすぐに学校だと分かるような施設をイメージしていました。しかし、今回見学した校舎は、それとは全く異なる、次元の違う施設であったように感じました。 ・その中で、教職員の異動に関して、小学校や中学校から東条学園へ異動してきた先生方に、違和感や戸惑いはなかったのか、という質問をさせていただきました。児童生徒は環境の変化に比較的早く慣れると思いますが、教職員の方は少し戸惑うのではないかと感じたためです。 ・それに対して、事前に研修を行っているため問題はない、というご回答でした。ただ、私自身としては、3月末に少し研修に行っただけで大きく変わるものなのかという思いもありましたが、その場ではそれ以上は申し上げませんでした。 ・東条学園は、本当にこれが校舎なのかと思うほど素晴らしい施設でした。また、加東市では他に第2、第3と3校も建てると、力が入っているんですね。 ・校内を案内していただき、子どもたちの様子もを見せていただきました。おそらく何度も視察を受け入れているため、子どもたちも慣れているのだと思いますが、笑顔で「こんにちは」と挨拶してくれました。 ・先ほども申し上げたように、子どもたちは環境が変わってもすぐに慣れるのだらうと思います。一方で、教職員の方々が新しい環境や仕組みにどのように対応していくのかという点については、引き続き気になるところです。 ・数年後にどのような評価や声が出てくるのかは分かりませんが、今回の視察を通じて、施設としては非常に素晴らしかったというのが率直な感想です。
委員 B	・私も、東条学園を視察して非常に驚きました。校舎の大きさや建物の雰囲気、自分が小中学校に通っていた頃の学校とは全く違う印象で、非常に立派な施設であると感じました。 ・校舎を一周しながら見学する中で、動線がとてもよく考えられて設計されていると感じました。例えば、雨の日にスクールバスを待つ場所についても、子どもたちが雨に濡れないように、広いスペースが確保されていました。細かな部分まで配慮されており、全体として非常によく考えられた施設だと感じました。 ・特に印象に残ったのは、各階に相談室が設けられていたことです。子どもたちが悩みや相談ごとを話せる個室が確保されており、学年が上がるにつれて相談室の数も多く設けられているとのことでした。

	た。年齢が上がるにつれて、悩みや進路に関する相談も増えていくと思いますので、そうした面でも子どもたちをしっかりとケアできるように考えられていると感じました。 ・また、多目的スペースが多く設けられており、開放感があって広々とした印象を受けました。子どもたちが落ち着いて学校生活を送ることができる環境が整えられていると感じました。 ・こうした落ち着いた環境で学校生活を送ることは、子どもたちにとっても、先生方にとっても、心の面で非常に良いことだと思います。施設のつくりや空間の使い方を通じて、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりがしっかり考えられていることを強く感じました。
事務局	・ありがとうございました。 ・報告については、短い時間ではありましたが、以上となります。 ・今年度内にもう一度、視察の機会を設けたいと考えておりますので、皆さまご多忙の中とは存じますが、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。
委員長	・ただいま事務局から説明があり、また、ご参加の委員の皆さまからご意見をいただきましたが、何かご質問等はございますか。
出席委員	・（意見、質問等なし）
委員長	・後ほどのワークショップの中でも、各テーブルでこうした内容を共有していただく時間があるかと思いますので、ここでは次に進めさせていただきます。 ・続きまして、次第の「2-2 アンケート（保護者・教職員）の結果報告」について、事務局より説明をお願いいたします。
2-2 アンケート（保護者・教職員）の結果報告	
事務局	・それでは、本日配布しております資料3「アンケート調査結果」のスライド資料をご覧ください。 ・さきほどもご説明しましたが、5月20日から6月3日にかけて、小中学校の教職員の皆さま、また、0歳から中学校3年生までのお子さまの保護者の皆さまを対象に、アンケートを実施しました。 ・今回は速報という形で、概要のみの報告となります。 ・まず、教職員アンケートについては、全体としては肯定的な意見が多い結果となりました。ただし、一部には「どちらとも言えない」「分からない」といった回答もあり、設問によって割合は異なりますが、1割から3、4割程度見られました。 ・そうした回答の中には、否定的な意見に近いものや、不安を感じておられる意見も含まれていました。これらの意見については、改めて集計・整理した上で、今後、不安の解消に向けて教育委員会としても取り組んでいきたいと考えています。 ・次に、保護者アンケートについてです。 ・保護者アンケートでは、約半数が肯定的な意見であり、反対意見は約1割、「どちらとも言えない」「分からない」といった意見が約4割という結果となりました。 ・こちらについても、肯定的な意見や期待に答えていくとともに、残りの約半数の方々が感じておられる「よく分からない」という思いや不安、また否定的・反対のご意見に対して、理解促進や不安の解

	消に向けた取組が必要であると感じています。 ・今回は、アンケート結果の速報としてご紹介しました。今後、いただいたご意見の内容を整理した上で、改めて後日お配りさせていただきたいと思います。
委員長	・ありがとうございました。 ・ただいま、アンケート調査結果について報告いただきましたが、これについて何かご質問やご意見はございますか。
出席委員	・(意見、質問等なし)
委員長	・それでは、次に進めさせていただきたいと思います。 ・続きまして、次第の3番目「現在の小中学校における取組や注力している内容」に移ります。事務局より説明をお願いいたします。
2-3 現在の小中学校における取組や注力している内容	
事務局	・こちらについて、各小中学校の校長先生より、それぞれご説明をいただきたいと思いますと考えております。それでは、まず松洋中学校の吉村校長よりお願いいたします。
吉村委員 (松洋中学校)	・本校は、今年度4月から、生徒数124名、通常学級6学級、特別支援学級1学級でスタートしております。 ・小中学校の校舎の中庭側に碑がありますが、そこには「教健・自立・友愛」という言葉が刻まれています。本校では、この言葉を大切にしながら、地域からも信頼される学校を目指して取り組んでいるところです。 ・一方で、部活動については、生徒数の減少に伴い、部活動の数も少しずつ減ってきているのが現状です。現在の部活動としては、野球部、女子バレー部、ソフトテニス部、陸上部、卓球部、柔道部、バドミントン部があり、文化系として美術家庭部、吹奏楽部があります。 ・また、毎年、中体連の夏の大会に向けて壮行会を行っています。松洋中学校では、「ああ松洋の血」という応援歌を歌って壮行会を行う伝統が続いており、卒業生の方々もこの応援歌を覚えておられるのではないかと思います。こうした伝統も大切にしながら、学校運営や学校生活を進めています。 ・本校の学校教育目標は、「豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒を育てる」です。 ・また、めざす生徒像として、次の5つを掲げています。 1つ目は、生命を尊重し、他人を思いやる生徒。 2つ目は、基本的生活習慣を身につけ、きまりを守り、自分の行動に責任を持つ生徒。 3つ目は、自主・自立の心と強い意志を持ち、実践する生徒。 4つ目は、自ら生きる目標を求め、その実現に努力する生徒。 5つ目は、感謝の心や公共のために尽くす心を持つ生徒です。 ・この5つの生徒像を目指しながら、松洋中学校の生徒の育成を進めているところです。 ・学習面についても、さまざまな取組を進めています。ICT教育にも取り組みながら、補充学習や、正しい進路選択に向けて取り組んでいます。 ・また、地域に根ざした教育として、ふるさと教育にも取り組んでい

	ます。大学生による三尾についての出前授業や、煙樹ヶ浜での清掃活動、松葉を使った堆肥づくりなども行っています。 ・特に、ここ数年注目され、新聞にも取り上げられている取組として、中学生議会があります。中学生の視点から、議会でさまざまな意見を一般質問として発表させていただいており、その内容が実際に町政に取り入れられることもあります。これは、中学生にとって大きな励みになるとともに、町を見直す機会にもなっていると感じています。 ・以上のような取組を進めながら、松洋中学校として、子どもたちの成長を支えているところです。
事務局	・ありがとうございました。 ・続きまして松原小学校の福田校長からお願いします。
福田委員 (松原小学校)	・松原小学校は、今年度、全児童 102 名で、各学年 1 学級、特別支援学級 2 学級の合計 8 学級となっています。職員は 19 名です。 ・本校の教育目標は、「自ら考え、健康で心豊かな子どもの育成」です。この教育目標に向けて、4 つの柱を掲げています。1 つ目が「教科指導の充実」、2 つ目が「心の教育の充実」、3 つ目が「健やかな身体の育成」、4 つ目が「地域に開かれた学校」です。 ・まず、1 つ目の「教科指導の充実」についてです。 ・各学年・各学級において、授業規律を確立し、落ち着いて学習に取り組むことを大切にしています。今年度は、国語の「読むこと」を中心に、文章を読み、自分の思いや考えを書いたり話したりする力をつけることを目指しています。授業はもちろん、朝学習や「松小タイム」という基礎学習の時間も活用しながら、取組を進めています。 ・また、本校では以前から読書指導にも力を入れています。児童が本を手に取り、読むことが楽しいと感じられるよう、図書館の利用促進にも取り組んでいます。実際に図書室の利用は多く、昨年度は児童数 107 名の中で、貸出冊数 1 万冊を達成することができました。 ・さらに、昨年度から電子書籍もタブレットで利用できるようになり、子どもたちは隙間の時間にも本を読む活動に取り組むことができています。 ・次に、2 つ目の「心の教育の充実」についてです。 ・学校が児童にとって安心・安全に過ごせる場所となるよう、全教職員で取り組んでいます。教職員が共通認識を持って生活指導にあたることを大切に、道徳教育や障がい者認識学習、いじめの解消率 100% を目指した取組を進めています。 ・また、異学年との関わりを大切に活動も取り入れています。毎日の清掃活動や児童会の集会などでは、縦割り班で活動しており、楽しく協力しながら取り組む機会が多くあります。行事などでは、1 年生と 6 年生、2 年生と 5 年生が関わるなど、上級生が低学年をフォローする活動も取り入れています。 ・3 つ目は、「健やかな身体の育成」です。 ・体力向上のために、外遊びや、季節に応じたプールでの活動、マラソンなどの運動を推進しています。また、毎日の健康観察を通じて、児童の健康状態や日々の生活習慣を把握し、指導することも大切に

	しています。 ・安全面では、避難訓練や交通安全教室なども計画的に実施しています。美浜町で暮らす子どもたちとして、自分の命を自分で守ることができるという意識を、小さい頃から持てるように、危機回避能力を身につけることにも力を入れています。 ・4つ目は、「地域に開かれた学校」です。 ・地域への情報発信として、ホームページや学校通信「えんじゅ」、町広報紙「広報みはま」、各学年・学級通信などを定期的に発行しています。また、担任からの家庭連絡なども密に行い、保護者とのつながりを大切にしています。 ・さらに、地域の方をゲストティーチャーとして招き、各学年でふるさとについて学ぶ授業も行っています。 ・特に松林については、松原小学校の校章にも松が使われていることから、身近な地域資源として大切にしています。遊び場としての活用に加え、毎日の清掃活動、冬のクリーン作戦、松林探検教室などを実施しており、地域教材として、また学校生活の一部として、学びや活動に取り入れています。
事務局	・ありがとうございました。 ・続きまして和田小学校の立花校長からお願いします。
立花委員 (和田小学校)	・本校は、全校児童 151 名、通常学級 6 学級、特別支援学級 2 学級の、合計 8 学級です。教職員は 25 名で、職員一丸となって教育活動に取り組んでおります。 ・本校では、「自ら学び、たくましく生きる、心豊かな子ども」の育成を目指し、家庭や地域と連携しながら教育活動を進めています。 ・学習面では、今年度の研究主題を「学ぶ意欲を持ち、主体的に学習する児童の育成 - 一人一人の資質・能力を育む授業づくり -」とし、授業改善に取り組んでいます。 ・特に算数を中心に、学年間の学びのつながりを大切にした、系統性のある授業づくりを進めています。また、自分の考えを書いたり、友達に説明したりする活動を通して、思考を言語化する授業づくりにも力を入れています。 ・子どもたちが主体的に課題に向き合い、考えを深めながら学ぶことで、これからの社会を生きるために必要な資質・能力の育成を目指しています。また、1 人 1 台端末のタブレットを活用しながら、学びの充実にも取り組んでいます。 ・豊かな心を育むための取組としては、あいさつ運動や縦割り活動、読書活動などを推進しています。これまではレクリエーション的な活動が中心でしたが、今年度からは清掃も縦割り班で行っています。異学年との交流を通して、思いやりや協力する心を育むとともに、地域とのつながりを生かした交流活動も展開しています。 ・特に、本校の特色である地域学習では、多くの地域の皆さまにご協力をいただいております。 ・毎日の登下校では、学校安全ボランティアの方々による見守り活動に支えられ、子どもたちは安全・安心な環境の中で学校生活を送っています。 ・また、地域の方々のご指導のもと、田植えや稲刈りを実施し、食や

	農業の大切さについても学んでいます。昔遊び体験では、地域の高齢者の皆さまとの交流を通して、伝統文化や人との関わりの温かさに触れる機会となっています。 ・昨年度は、高齢者の方々と「ボッチャ」というスポーツを通して交流しました。今年度もボッチャを実施する予定ですが、さらに認知症サポーター講座についてもご協力いただけることとなり、認知症について学ぶ予定です。 ・さらに、地域のまち歩きやフィールドワークでは、地域の歴史や文化、自然について学び、「カナダ移民の父」工野儀兵衛やアメリカ村について調べることで、ふるさとへの理解を深めています。 ・松林の植栽や伐採体験では、地域の環境保全活動に参加し、自然を守り育てることの大切さを学んでいます。 ・防災教育においては、今年度、和歌山高専の皆さまにご協力いただき、避難や防災について学ぶ予定にしています。地域の実情に応じた防災意識を高め、自ら命を守る力の育成につなげていきたいと考えています。 ・また、今年度は、地域にある和歌山病院との交流活動も計画しています。医療に携わる方々や病院で過ごされている方々との関わりを通して、人権や思いやりの心について学んでいきます ・このように、本校では、地域の皆さまの温かいご支援とご協力のもと、多様な体験活動を実施しています。子どもたちは、地域の中で学び、地域に支えられながら成長しているということを強く感じています。 ・これからも、家庭・地域・学校が力を合わせて、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思っております。
委員長	・それでは、ただいまの説明について、ご質問・ご意見等はございますか。
出席委員	・（意見、質問等なし）
委員長	・それでは、次第の「2-4 検討内容 1）意見交換（グループワーク）」に移りたいと思います。 ・事務局より説明をお願いいたします。
2-4 検討内容 1）意見交換（グループワーク）	
事務局	・本日は、各テーブルに定められたテーマについて、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。 ・資料にも記載しておりますが、本日のグループワークの進め方と、各テーブルに設定しているテーマについて、説明させていただきます。会場の壁面にも掲示しておりますので、あわせてご確認ください。 ・グループワークの進め方については、今回、業務を委託しておりますアルパックより説明させていただきます。 ・本日は、忌憚のない、ちょっとしたことでも構いませんので、ぜひ積極的にご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。
事務局 （アルパック）	・それでは、次第の裏側にあります「グループワークの進め方」をご覧ください。少し内容が多く、分かりにくい部分もあるかと思いますが、各テーブルでの議論、検討、意見交換を 3 回、3 ラウンド行

	います。 ・1 回目は、現在座っていただいているテーブルで行います。 ・2 回目、3 回目については、席を移動していただきます。お手数ですが、お荷物については、壁側に机を用意しておりますので、必要に応じてそちらを荷物置きとしてご利用ください。いろいろな方々と意見交換を進めていただければと思います。 ・各テーブルのテーマについてご説明します。 ・A テーブルでは、「どんな子どもで卒業してほしいか」「これからの時代に必要な力とは」というテーマで議論していただきます。 ・B テーブルでは、「美浜町で育つということ」「学力だけでない“生きる力”をどう育むか」というテーマで議論していただきます。 ・C テーブルでは、「子どもたちが“通いたくなる学校”とは」「子どもが困っていることは何か」というテーマで議論していただきます。 ・D テーブルでは、「小中学校に求めることは」「小中一貫教育に期待することは」というテーマで議論していただきます。 ・A・B テーブルは、大きなテーマとして「目指す子ども像」を考えるテーマとなっています。C・D テーブルは、「教育の基本理念」を考えるテーマとなっています。 ・それぞれ3 ラウンドございますので、どこかのタイミングで、前側と後ろ側の両方の議論に参加していただくようお願いいたします。 ・テーブルワークの進め方につきましては、各テーブルで担当のファシリテーターから説明させていただきます。 ・それでは、まずテーブルに置いております名札を首にかけていただき、各テーブルで進行を始めさせていただきます。 ・よろしくお願いいたします。
出席委員	・(意見交換 (グループワーク))
2-4 検討内容 2) 本日の意見の共有	
事務局	・皆さん、ありがとうございました。 ・それでは、これから少しお時間をいただきまして、各テーブルでファシリテーターを務めていただいたアルパックの皆さんから、それぞれのテーブルで出たご意見について、簡単に発表していただきたいと思います。
事務局 (アルパック)	・A テーブルでは、「どんな子どもで卒業してほしいか」と「これからの時代に必要な力」の2 つについて議論しました。 ・まず、「どんな子どもで卒業してほしいか」について、いくつかの意見を紹介します。 ・まず、ふるさと愛です。自分の生まれ育った地域に誇りを持ち、地域を大切にできる子どもに育ってほしいという意見がありました。 ・次に、優しさや思いやりです。人の気持ちが分かり、相手のことを考えて行動できる子どもに育ってほしいという意見が出ていました。 ・また、多様性を認めることや、努力すること、夢や目標を持って生きていけることも大切ではないかという意見がありました。 ・特に多く出ていたのは、社会性や判断力に関する意見です。社会常識を持ち、人との付き合いがきちんとできること、また、善悪を判断し、正しい行動ができる子どもに育ってほしいという意見が多く

	ありました。 ・最近、SNS やインターネットを通じて、子どもたちが多くの情報に触れる時代になっています。そのため、SNS などに流されず、何が正しくて、何が良くないのかを自分で判断できる力が大切であるという意見が多く出ていました。 ・この点は、「これからの時代に必要な力」にもつながる部分かと思います。 「これからの時代に必要な力」としては、まず、正しい判断ができる力が挙げられました。関連して、お金の価値が分かることや、デジタルに頼りすぎないことも大切ではないかという意見がありました。今はネットで簡単に物を買うことができ、子どもたちにとってお金を使っている実感が持ちにくくなっている面もあります。そのため、物の価値やお金の価値をきちんと理解できる力を身につけてほしいという意見がありました。 ・また、人ときちんと関わるためには、学力や語学力、コミュニケーション能力も必要であるという意見がありました。 ・さらに、AI や SNS などの技術についても、それらに流されたり左右されたりするのではなく、正しく活用できる力が必要ではないかという意見が出ていました。 ・その他、子どもたちは成長の過程で困難にぶつかったり、間違いをしてしまったりすることもあると思いますが、そのようなときにも立ち直る力や、課題を解決する力を身につけてほしいという意見もありました。
事務局 (アルパック)	・B テーブルでは、「美浜町で育つこと」と、「学力だけではない、生きる力をどう育むか」という点について議論しました。 ・まず、美浜町で育つことの意義や価値について意見を出していただきました。大きく整理すると、“自然環境”に関する意見と、“命を守る防災”に関する意見が多く出ました。 ・特に、松林の大切さや、海岸部における防災の話が多く出ていました。松林をどのように守り、次の世代に受け継いでいくかということは、命を守る防災の話とも深く関わってくるため、この2つは関連するテーマとして、皆さんの関心が高かったように思います。 ・歴史や文化についても意見が出ました。地域には祭りなどの行事があります。子どもたちがそれら祭事に関わることで、地域への関心が生まれ、地域への愛着につながっていくのではないかという意見が出ていました。 ・さらに、美浜町ならではの資源として、アメリカ村や煙樹ヶ浜などの話も出ていました。こうした地域資源は、美浜町のオンリーワンの魅力であり、子どもたちにもきちんと学んでほしいという意見がありました。 ・また、美浜町では地域（住民）との距離が近く、顔見知りの関係ができやすいという意見もありました。そのような環境で育つことで、つながりが育まれ、結果的にコミュニケーション能力の高い子どもたちが育っていくのではないかという話もありました。 ・一方、美浜町で育つことに価値があると感じているが、なかなか町に戻ってきてくれない、定住につながりにくいという課題意識も出

	ていました。そうした人たちをどのように呼び戻すか、あるいは関わりを持ち続けてもらうかという点も、これからの美浜町にとって大きな課題の1つではないかという意見がありました。 ・次に、そうした環境の中でどのような力が身につくのか、また、どのような力を身につけてほしいかについても意見を出していただきました。 ・具体的には、多様な人の考えを理解し、受け止める力が大切ではないかという意見がありました。また、「踏ん張る力」という意見もあり、困難にぶつかったときにも立ち直る力、いわば心のレジリエンスのような力を大切にしたいという意見もありました。 ・その他、社会性を育むこと、人ときちんとコミュニケーションが取れることも大切であるという意見が出ていました。 ・また、防災に関する体験や、海・津波に関する学びを通じて、命を大切にする力や、防災に対する意識を育てることも重要ではないかという意見がありました。 ・さらに、それら様々な学びを通じて、自分で考え、実行し、課題を解決していく力を、美浜町の中で身につけることができるのではないかという意見も出ていました。
委員 B	・C テーブルでは、「子どもたちが通いたくなる学校とは」と、「子どもが困っていることとは何か」について議論しました。 ・まず、子どもたちが通いたくなる学校については、仲の良い友達がいることや、先生とのつながりがあることが大切ではないかという意見が多く出ていました。 ・子どもたちにとって、心配事や悩みがあるときに相談できる友達や先生が学校にいるという安心感は、学校に通いたいと思えることにつながっていくのではないかという意見がありました。 ・また、学校の中だけでなく、子どもたちが活躍できる場や、自分の良さを発揮できる場があることも大切ではないかという意見がありました。 ・さらに、学校に楽しいことがあると、子どもたちも通いたくなると思いますので、イベントや行事なども大切ではないかという意見が出ていました。 ・次に、子どもたちが困っていることについては、学力の差に関する意見が出ていました。また、友達とうまく関わることが難しい子どもたちもいるのではないかという意見もありました。 ・学力の差が、友達関係や学校生活のしんどさにつながっている面もあるのかもしれないという話も出ていました。 ・また、ゲームより楽しいことがない、スマホや SNS に関する問題があるといった意見も出ていました。そのため、スマホや SNS との付き合い方に関する教育も大切ではないかという意見がありました。 ・そのほか、施設が古いことや、空調設備が十分でないこと、生徒数が少ないことなど、学校環境に関する意見も出ていました。 ・全体として、運動面や勉強面、友達との関係づくりなどに困っている子どもたちに対して、どのようにサポートしていくかが大切ではないかという意見が出ていました。
事務局	・D テーブルでは、「学校に求めること」と「小中一貫教育に期待する

(アルパック)	こと」について検討しました。 ・まず、学校に求めることについては、学力に関する意見があまり多く出なかったことが印象的でした。むしろ、学校が子どもたちにとって楽しい場所であることを大前提として、社会性や協調性、生きる力を育むことができる場であってほしいという意見が多く出ていました。 ・また、子どもたちが安心して学び、成長できる空間として、学校がさまざまな経験や学びを提供できる場所であることが大切ではないかという意見がありました。 ・次に、小中一貫教育については、現在の小学校・中学校それぞれが持っている良さや工夫をうまく継承しながら、1 つにつなげていくことが大切ではないかという意見がありました。 ・その効果として、美浜町で小中学校時代を過ごした子どもたちが、大人になってから美浜町に戻ってきて、子育てをしたいと思えるような学校を目指していくことが望ましいのではないかという展望も出ていました。 ・また、小中一貫教育に期待することとしては、大きく「連携」がキーワードになっていたと思います。小学校から中学校への流れをスムーズにすることや、9 年間を見通したステップアップのあり方について、しっかり検討していく必要があるという意見がありました。 ・特に、小中学校の連携だけでなく、小学校同士の連携も大切ではないかという意見が出ていました。 ・さらに、小中一貫教育では、9 年間を通したカリキュラムをつくっていくことになるため、専門性のある教育内容や、系統的な学びの展開をしっかり整えていく必要があるという意見もありました。 ・最終的には、小中一貫校をつくることによって、子育て世代に選ばれ、美浜町の子どもの人口が増えていくような展開を期待したいという形で、D 班では意見を取りまとめました。
事務局 (アルパック)	・本日は、A 班、B 班、C 班、D 班に分かれて、ざっくばらんにご意見をいただき、ありがとうございました。 ・まだ十分に整理できていない部分もございますが、本日いただいたご意見については、我々の方で持ち帰らせていただき、一度整理・精査した上で、次回の検討委員会でお示しさせていただきたいと思えます。 ・それでは、以上でグループワークを終了させていただきます。 ・皆さま、ありがとうございました。
事務局	・貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。
委員長	・グループワークについて、ご意見やご質問はございますか。
出席委員	・(意見、質問等なし)
委員長	・本日は、当初想定していたよりも、皆さまから本当にさまざまなご意見をいただけたかと思えます。 ・今回いただいたご意見は、今後の基本コンセプトを考えていく上で、非常に大切な材料になってくると考えております。多くのご意見をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。 ・それでは、次に進めさせていただきます。 ・続きまして、次第の「2-5 その他 今後のスケジュール」について

	説明をお願いいたします。
2-5 その他 –今後のスケジュール	
事務局	・ それでは今後のスケジュールについてです。 ・ 次回、第5回の検討委員会につきましては、現時点では9月頃の開催を予定しております。 ・ 今回いただいたご意見の整理結果をお示しするとともに、皆さまから改めてご意見を伺う形を考えております。 ・ その後、第6回の検討委員会では、基本方針をもう少し形にした原案のようなものをお示しできればと考えております。 ・ なお、第5回の具体的な日程については、現時点ではまだ決まっておりません。時期が近づき、予定が決まりましたら、改めてご連絡させていただきます。 ・ 引き続き、よろしくお願いいたします。
委員長	・ ただいまの事務局からの説明について、何かご意見やご質問はございますか。 ・ また、本日全体を通して、何かございましたらお願いいたします。
出席委員	・ (意見、質問等なし)
	・ それでは、以上をもちまして、本日の検討委員会を終了させていただきます。 ・ 皆さま、本日は長時間にわたりご協力いただきまして、ありがとうございました。 ・ また次回以降も、どうぞよろしくお願いいたします。
3. 閉会	
	以上

【各テーブルの意見】

●テーブルA（目指す子ども像について）

テーマ：どんなこどもで卒業してほしい？	
分類	意見
郷土愛	・ふるさとにほこりを持ったこどもに… ・ふるさと愛 ・故郷を思うこどもに育って欲しい ・地域を支える自覚 ・地域の方々の支えてくれるに感謝できる子
やさしさ	・優しい気持ちを持った児童生徒になってほしい ・優しい子ども ・人や物を思いやる心 ・思いやりを持つ子
多様性	・いろんな考え方を認められる考え方を持った子ども
努力	・何事も一生懸命やる ・まじめ ・向上心をもって努力できる
夢	・（大なり小なり）夢や希望や目標を持って次のステップへ ・未来に希望をもって生きていけるこども
社会性	・人の気持ちが分かる人になってほしい ・人間の心を持った人間 ・問題行動の自覚 ・社会常識のある児童生徒 ・人の気持ちが分かって行動できる子ども ・人との付き合いができる ・貢献できる子（迷惑をかけない子） ・誰とでもわかりあえる力 ・社交性 ・あいさつができる ・相手のことが理解できる ・コミュニケーション能力 ・しっかりと他人に言葉で伝える事ができる子（語学力（国語・英語））

テーマ：これからの時代に必要な力とは？	
分類	意見
判断能力	・正しい判断ができる ・事の善悪を見分けられる ・情報がたくさんある中で判別できる力 ・何が大切かわかる子ども ・色々な事への対応力 ・根拠（考え）をもって yes, no が言える子、言える力（自分の意見） ・自分で考える事が出来る子 ・自分の意見を持った人になってほしい ・真偽を考える力 ・SNS 等に流されない子ども（そのようなことに流されない）
時代に即する力	・次代に即応した人間 ・社会情勢を読む力 ・先端技術（AI など）を利用する力（左右されるのではなく） ・デジタルに頼りすぎない ・お金の価値がわかる
問題・課題解決	・困難なことにぶつかっても立ち直る力 ・難しいことでも力を合わせて解決する力
その他	・小学生、中学生らしい児童生徒での卒業 ・効率性 ・自己肯定感を持つ ・単独でも集団でも動ける力

●テーブルB（目指す子ども像について）

テーマ：美浜町で育つということ？	
分類	意見
自然環境・地域産業	・美浜町の住環境、自然環境を生かした地域の様々な片との交流、ふれあい、つながりによって生きる力を身につける事が大切 ・美しい自然環境で育まれる心情 ・松林の保護、育成活動へ参加することで地域貢献、ボランティア精神を養う ・自然の豊かさ（農業、漁業、松林） ・農業に触れる機会が多い ・自然の良さ（海・川・山）の存在 ・海、山のある美浜町ならではの知識（自然の知識） ・松林の大切さ ・松林を利用した体力づくり、遊び ・美浜町にしかない松林の意味を知る、将来的に導く ・松林、海を守っていく ・地域性（海、山、漁業、農業、×鉄道がない）
命を守る（防災）	・津波からどう命を守るか（防災意識・防災知識） ・地震、津波、台風、洪水などの自然災害
歴史文化	・伝統文化である秋祭などの行事へ関わることで地域への関心を持つ ・各地区での秋祭の特徴 ・地域学習（三尾の文化、城跡） ・美浜町のオンリーワン（アメリカ村、煙樹ヶ浜など） ・各地域の特色を生かす体験教育 ・旧校、各校の伝統を引継ぐ努力
地域（家庭）	・地域とのつながりから顔見知りの大人へ ・地域の人との距離が近い ・家庭におけるコミュニケーション（親の背中を見て子は育つ） ・地域のぬくもり、あたたかさ ・犯罪に巻き込まれる可能性が比較的低い
将来のこと	・先程、小中学校校長がお話した「注力していること」につながると思います。ふるさと社会勉強、豊かな心を育む人間形成を育成し、社会に出てコミュニケーション力を身に着ける事が「学力だけではない」学校の意義と考えます。 ・美浜町に残って欲しい ・防災上不安があるので、出ていく人が多い

テーマ：学力だけでない“生きる力”をどう育むか？	
分類	意見
学力だけではなく身につけたい力	・多様な考えを持つ人を理解しようとする力 ・ふんばる力（努力する大切さ、小さなステップでも続けていく大切さ） ・困難にぶつかってもたくましく立ち直る力 ・環境に適応し、学び続ける力 ・台風の怖さを知り、対応する力（危機管理能力） ・防災について自分で考え、実行する力 ・防災意識（海に近いがゆえの避難知識） ・自分の得意を見つける力 ・社会性、常識 ・学年をこえた交流が多い ・少人数だから周りの把握ができる（安全面） ・コミュニケーション能力 ・異学年やいろんな世代の意見を聞く力がつく ・近所の人や地域の人と交流しながらコミュニケーション力を育む ・地域住民との交流となる将来への夢 ・ふるさとを大切に思う気持ち ・休耕田を活用する力 ・体験的学習の充実（地域や自然）※各校今まで以上に取り入れる（総合的な学習の時間等を活用して） ・海をめいっぱい楽しむ（海について学ぶ）

●テーブルC（教育の基本理念について）

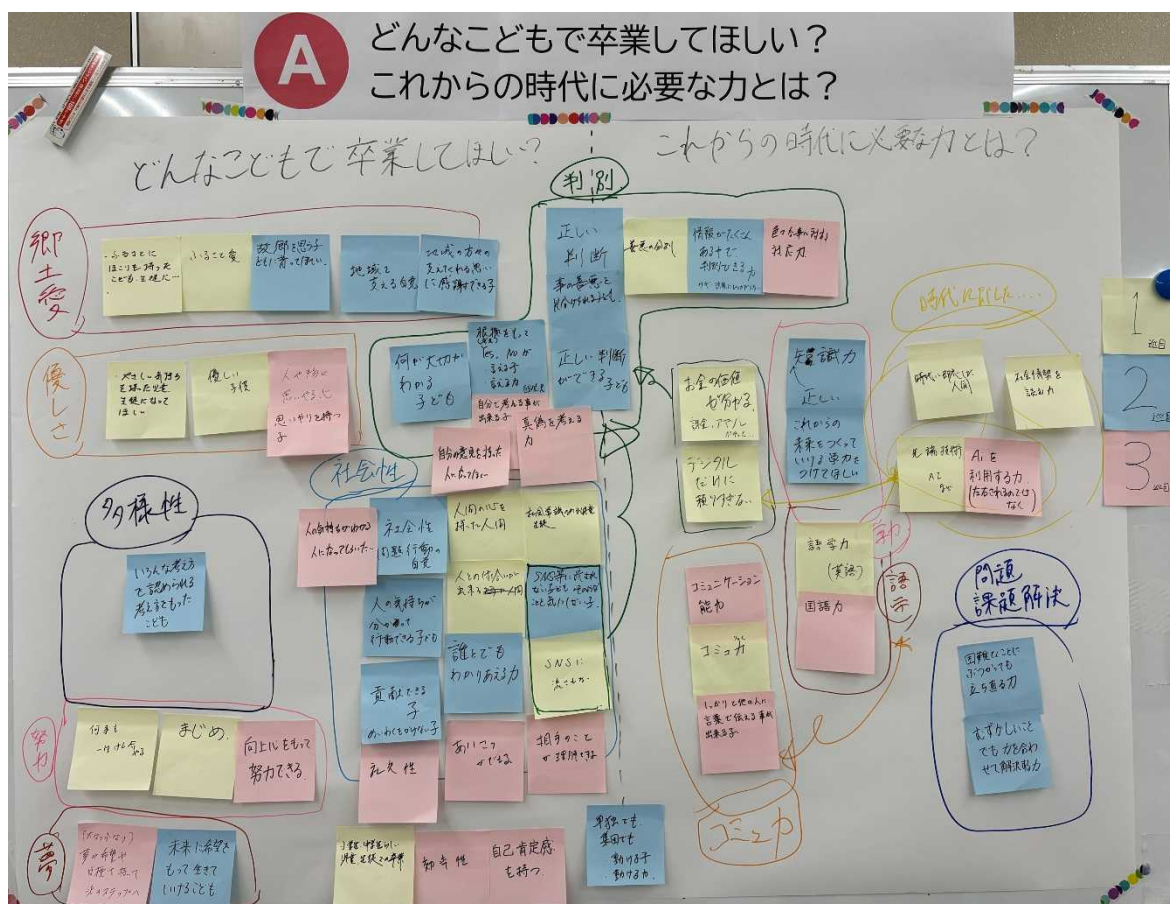
テーマ：子どもたちが“通いたくなる学校”とは？	
分類	意見
仲の良い友達	・仲の良い友達がいる ・友人や知人、仲間が多い学校 ・自由に誰とでも話し合える学校 ・友達や先生とのお喋りが楽しい、“つながり”
先生とのつながり	・優しい先生、理解してくれる先生がいる ・魅力ある教師 ・先生との距離が近い ・友達や先生とよい関係を築けている学校 ・勉強で心配なことがあっても聞ける先生、友達いる“つながり” ・豊かな心、広い心を持った先生の多い学校 ・いろんな相談を気軽に話せる先生がいる学校
活躍できる学校	・活躍できる学校 ・自分の力を発揮して表現できる学校 ・のびのびと活動できる ・学力向上に過度に偏らず、知・徳・体のバランスを ・低学年生が高学年生を理想と思えるような学校 ・勉強や運動などの自信のがんばりが評価される学校 ・落ち着いて学べる整った環境のある学校 ・勉強や運動ができる、わかる ・苦手も得意も両方がんばれる学校 ・学年に関係なく広く触れ合うことのできる学校
楽しい学校	・楽しい行事ある学校 ・明日の楽しみがある学校 ・授業がおもしろい学校 ・楽しみなことがある学校 ・学校に行くことで新しい発見や楽しみがある学校 ・おもしろい、楽しいがあり、通いたくなる学校
自由でいろいろな体験がある	・いろいろな体験ができる ・規則がなく、自由な学校 ・好きな授業だけ受けられる
いじめのない学校	・いじめのない学校 ・意地悪する同級生、上級生がいない
美味しい給食・自動販売機	・給食がおいしく、メニューが豊富 ・自動販売機がある学校
その他	・家に近いところにある学校

テーマ：子どもが困っていることは？	
分類	意見
学力	・学力の差がある ・勉強が難しく、ついていけない悩み ・学習についていけなくて授業が楽しめない子どもがいる ・テストが難しい ・宿題をやっていない（やる時間がない） ・宿題が多い ・テストへの負担感 ・勉強することに必要性を感じない
友達とうまく話せない	・決められた枠組みの中で窮屈に感じている子どももいる ・先生とのコミュニケーションがうまくとれない？ ・困っていることの伝え方がわからない ・親が子どもの喧嘩に入ってくること ・子ども同士の自律能力を大切に（親が） ・友達とうまく話したり、過ごしたりできない子どももいる ・勉強と運動面、友達とのコミュニケーションが苦手な子のサポート ・子どもの変化に気づく先生 ・家の近くに同級生が少ない ・学校が家から遠い
少子化	・子どもの数が少ない
雨天の遊び場不足	・ゲームより楽しいことがない ・スマホ、SNS問題が必ずといっていいほどある ・休み時間の遊び方 ・雨の日に遊ぶ場所が少ない ・雨の日の遊び場が限られる
その他	・子どもの困っていることに対応するための人が欲しい ・クールダウンするための場所がない ・更衣室がない ・学校施設が古い ・上履きが汚い ・松葉が多い

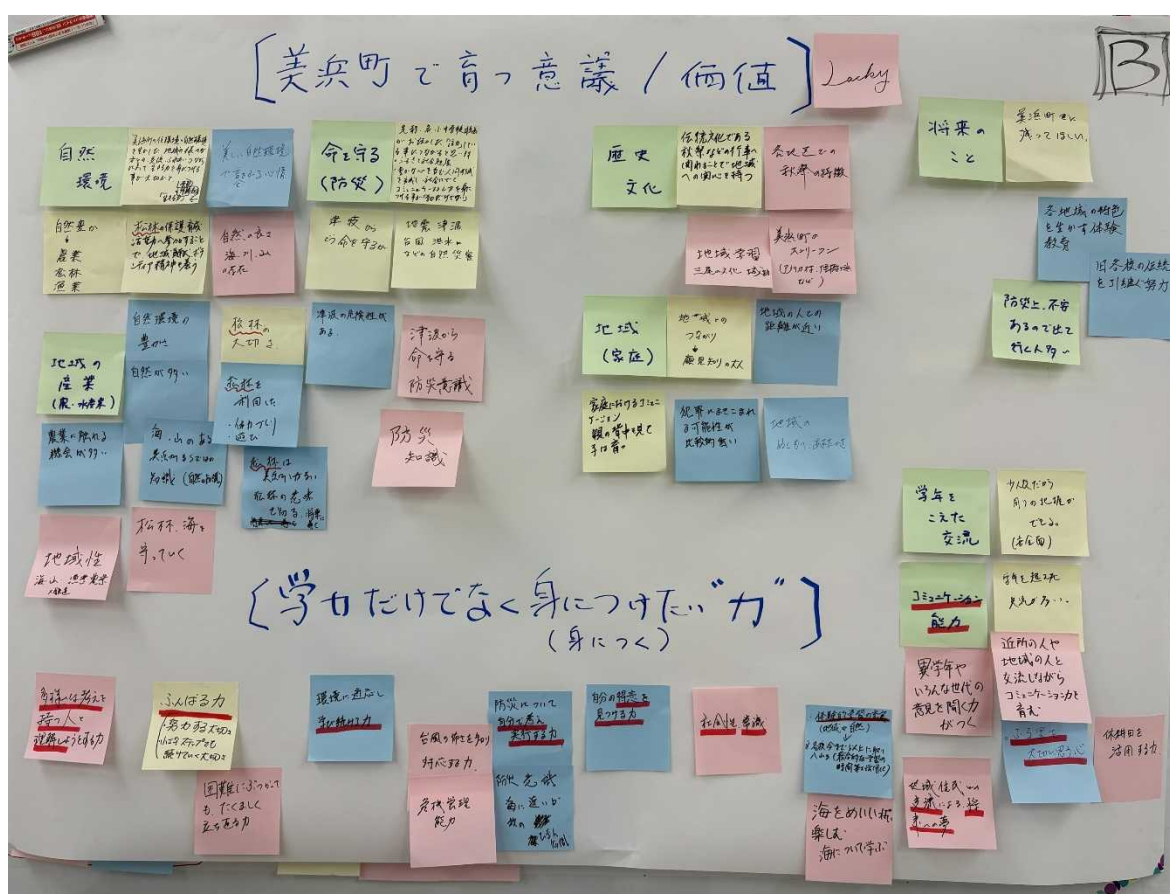
●テーブルD（教育の基本理念について）

テーマ：小中学校に求めることは？	
分類	意見
学校としての在り方	・みんなが仲間として楽しい学校 ・子どもと先生の良い関係性である学校 ・将来美浜町に戻り、母校で子育てをしたいと思える学校 ・生まれ故郷に貢献できる子どもが育つ学校
学校で学ぶべきこと	・小中学校で統一した“常識”“社会性”を学ぶ ・人間関係における強調性を学ぶ ・学力に加え、“生きる力”を体得できる ・のびのびしたこどもになってほしい
キャリア教育	・どう生きていきたいかを展望できる ・中学生が社会へ羽ばたける展望のある
その他	・現状の学校での取り組みや注力されていることを継続してほしい ・現状の良い点や校風をうまく継承していきたい

テーマ：小中一貫教育に期待することは？	
分類	意見
9 学年での連続性・ステップアップ	・小学校か中学校への気持ちの面での安心 ・下級生へのフォロー体制 ・中学生が小学生のあこがれ（目標）の姿となること ・中学校の授業を見たことによる小学生が興味を引く ・中 1 ギャップの解消 ・6-3 制にとらわれないカリキュラムによるステップアップ ・小中のスムーズな接続 ・小学校から中学校への学習面でのスムーズな流れ ・小学校での学びを生かした中学校教育 ・先の学年を見据えた学習 ・小学生は中学生の学び方を見て憧れや目標を持ち、中学生は小学生を見て、過去の自分をふりかえり成長の物差しとなるとともに、手を差し伸べられる子どもに
人間関係や連携の視点	・教育機器の充実も大切であるが、人間関係の基本を大切にしたい ・子ども同士のつながり ・小中よりも小小のつながり、小小の連携が大切 ・小中の先生と子どもたちの交流 ・先生方の連携を生かした交流授業の展開に期待 ・たてわりによる異学年交流
授業展開	・教科の専門性を生かしたカリキュラムと授業展開 ・町全体の地域学習から地域愛を育む ・中学校の先生の乗り入れ授業による専門的な授業 ・小学校の先生の乗り入れ授業によるきめ細やかな授業
環境の再整備	・教育環境（校舎・設備・人材）の充実 ・少ない投資でより良い環境整備をする ・学力向上、教育水準の向上により、他地域からの転入者の増加につながることを期待 ・小中一貫校で学ばせたい人の転入 ⇒出生率の増加



意見交換結果（テーブルA）



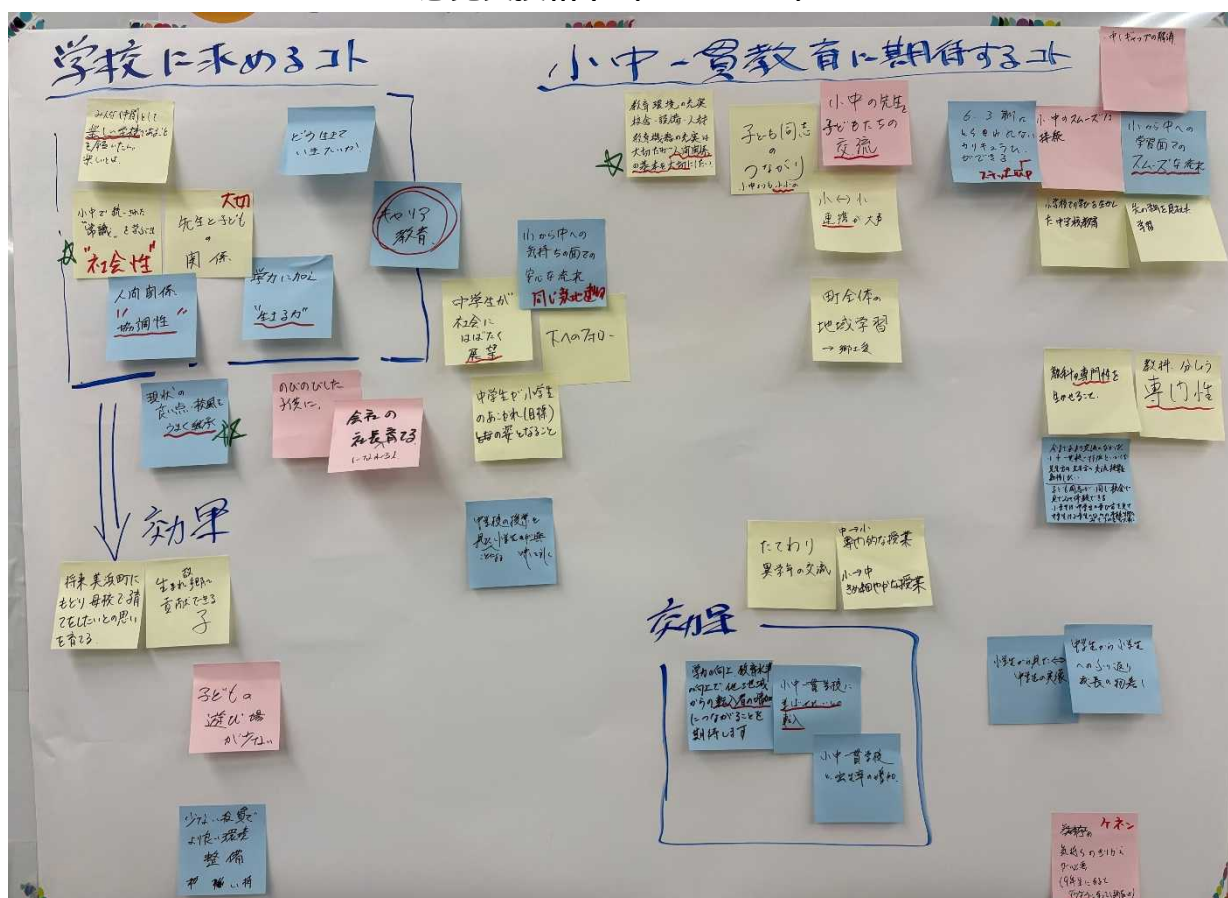
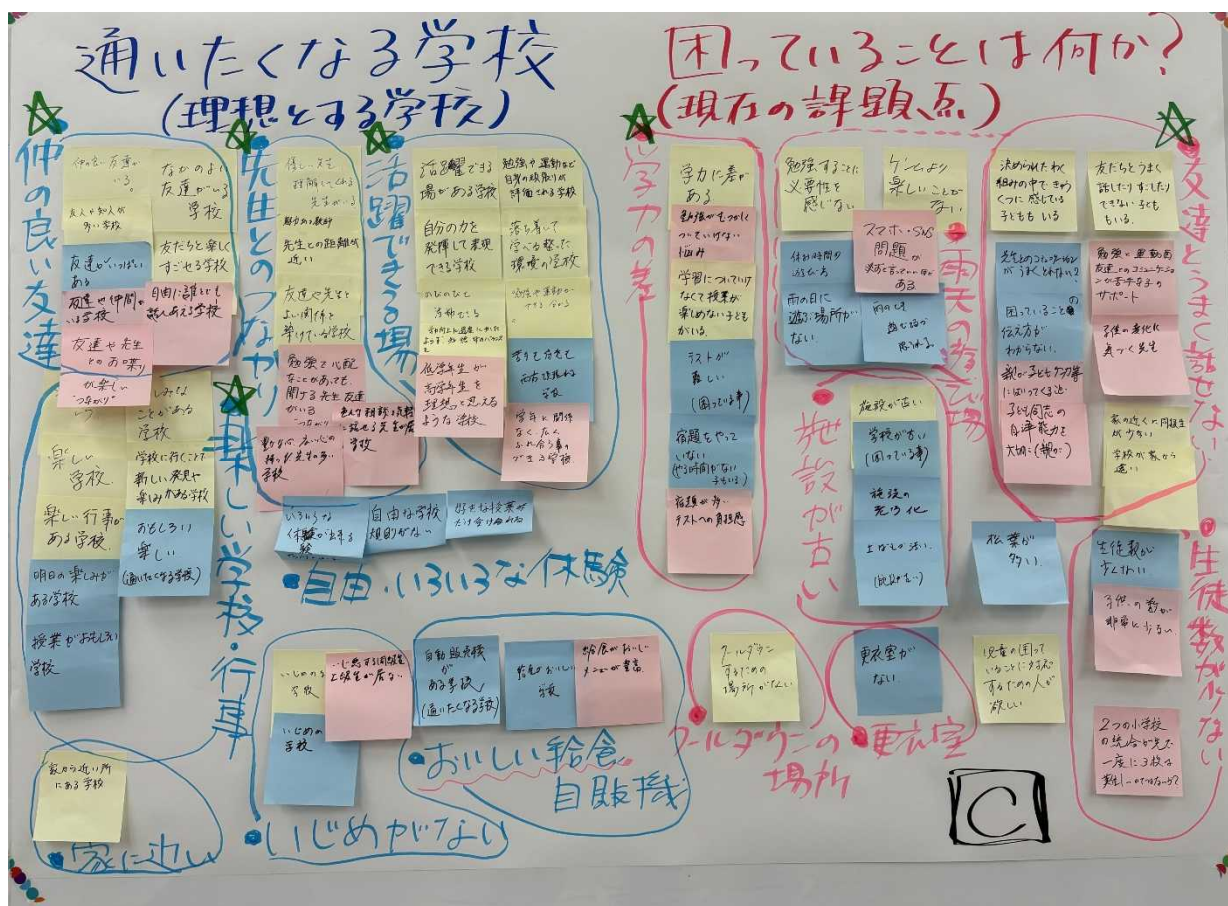
意見交換結果（テーブルB）

※同じテーマについて、グループメンバーを変えながら3巡の意見交換を行っており、各巡の意見が分かるよう、異なる色の付箋を使用しています

1巡目
意見

2巡目 意見

3巡目
意見



※同じテーマについて、グループメンバーを変えながら3巡の意見交換を行っており、各巡の意見が分かるよう、異なる色の付箋を使用しています

1巡目
意見2巡目
意見

3巡目 意見